

かな部

山野井 珠 几

古梅園の二階でお稽古をしています。最近、墨に興味の有る多くの外国人の方が来られ、書の体験をしたいと言われます。また、筆、紙などにも詳しく、かなり深い文房四宝の知識もSNSなどで承知されています。よく聞くと、日本のアニメで漢字もよく御存知で、下手をしようと、私達以上に日本の書に対しての造詣が深いようです。
十数年前、スペインで「安登仁男(アントニオ)」「加留面(カルメン)」とお名前の音を漢字に当てて、書いてさし上げるワークショップをした事がありますが、その頃とはずいぶん違う、日本の文化を深く学ぼうとする方が増えたことは嬉しいのですが、私達ももっと勉強しなくてはと思っています。

かな部 条幅課題

A 見渡せば花も紅葉もなかりけり

浦の苫屋の秋の夕暮 (藤原定家)

・はるばると見渡すと、花も紅葉もここにはなにもない。
浦の苫屋の、さびしい秋の夕暮れよ。

B 一人来て一人をとぶや秋の暮

・寂しい秋の夕暮、ひとり住みの庵へ一人の客が訪ねて来たことだ。
(与謝蕪村)

(しめきり)……………十二月十五日)

◎条幅出品券を作品の右下へ必ず貼付すること。

なお、作品の裏右下に段位、氏名を忘れず記入のこと。

※出品資格…五段以上。A・Bの両方同時に出品可。

※二点出品の場合、出品券の下部にA・Bを明記のこと。

※用紙は、半切縦か角半。

(選評)

師範・準師範の部

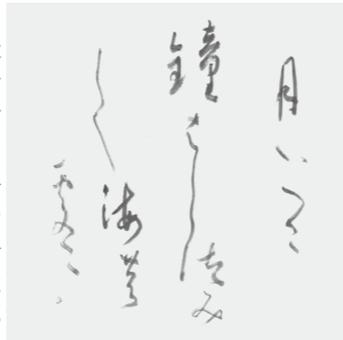
香溪君 古筆を相当学ばれた上での構成。線も拔群。

翠柳君 筆の開閉、浮沈良し。

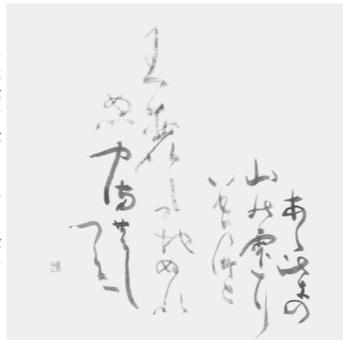
桃翠君 流麗。明快な作。

正美君 まるで墨絵を見ているよう。右上の月は超、粹。
千賀子君 角半に大胆な配字。疎密、線質の変化も見事。

(助教以下の部)



種村みや子



増田瞳子

大胆に余白を取り、線も強い。印、小さいか。

一群が下がりがすぎたが、温か味有る線質秀逸。



自然な流れが良い。



「零」二つを横にうまく書きわけた。



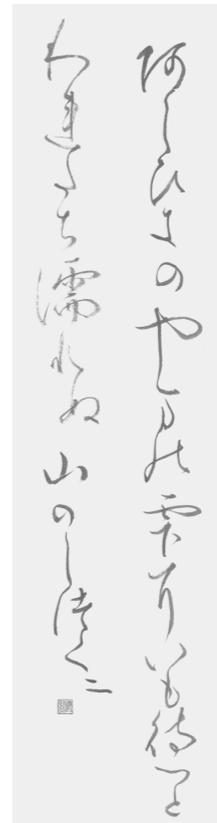
小粒の字形だが、仮名の余白を心得た作。



山路香溪



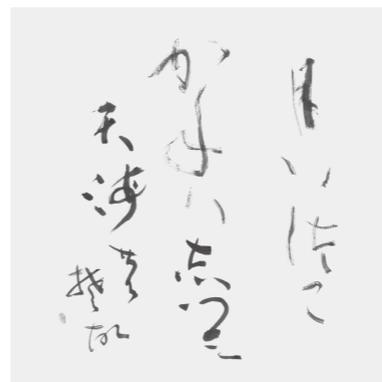
八幡翠柳



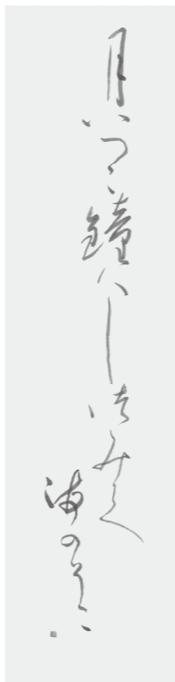
澤田桃翠



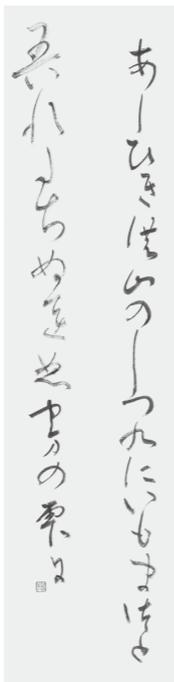
加茂正美



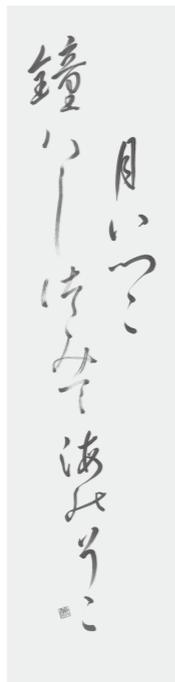
中川千賀子



白川 淳



西村 智子



新保麗絳



西嶋青暎



石田孝子

運腕大きく、伸びやかな作。

粘り有る線、達者な運筆。

墨色が際立って美しい。上下のちらし佳。

穂先鋭く、シャープな線質が良い。

二行の間の取り方も上手。骨力豊か。